

日本防菌防黴学会誌執筆要項

平成27年7月30日改正

執筆に先立って投稿規定およびこの執筆要項をよく読み、さらに最近の本誌を参考にし、版組み・印刷が速やかに正確にできるよう、ていねいにわかり易い原稿を作成するよう心がけてください。

1. 原稿は次の要領・書式に従って記述する。

原稿はA4用紙を用い、横打ち25字×32行とする。用紙の上下4cm、左右3cm程度余白を残す。余白に図、表の挿入箇所を記入する。

この用紙3枚が刷り上がり約1ページに相当。

2. 原稿は次の事項に従って記述する。

2.1 原著論文は和文表題^{a)}、和文著者名^{b)}、和文所属^{c)}、和文住所^{d)}、英文表題^{e)}、英文著者名^{f)}、英文所属^{g)}、英文住所^{h)}、英文要約ⁱ⁾、キーワード^{j)}、緒言^{k)}、実験方法^{l)}、実験結果^{m)}、考察ⁿ⁾、結論^{o)}、文献^{p)}の順に分けて記述する。別に投稿カードと内容大意^{q)}と英文要約の和訳を添付する。

a) 和文表題：表題は具体的にかつ簡単に論文内容を表すものとし、〇〇に関する研究(第〇報)のような表現はしない。また副題をつけない。

〔例1〕外科用ポリプロピレン製縫合糸の電子線殺菌

b) 和文著者名：複数の研究機関の共同研究の場合、著者名の右肩に所属表示のための番号を付ける。連絡先の著者(責任著者)には*印もつける。

〔例2〕防菌 太郎^{1*}、防黴 花子²

c) 和文所属およびd) 和文住所：著者名のアルファベットに続けて、その著者の所属、住所ならびに電話番号を記載する。

〔例3〕¹防菌大学・農学部

¹〒550-0005 大阪市西区西本町1丁目13-38 ☎〇〇〇〇

²防黴女子大学・家政学部

²〒550-0005 大阪市西区西本町1丁目9-16 ☎〇〇〇〇

e) 英文表題：ボールド体(太字)表示をし、表題中大文字で始まる語は、名詞・代名詞・形容詞・副詞・動詞とし、その他は小文字とする。

〔例4〕Mode of Action of Sorbic Acid on Resting Cells of *Saccharomyces cerevisiae*

f) 英文著者名：複数の研究機関の共同研究の場合、著者名の右肩に所属表示のための番号を付け、first, middle(イニシャルのみ)、family nameの順に記載する。連絡先の著者には*印もつける。

〔例5〕Taro BOKIN^{1*} AND Hanako BOBAI²

g) 英文所属およびh) 英文住所：イタリック体表示をし、単語の始めは大文字とする。

〔例6〕¹Department of Bacteriology, Osaka Health

Sciences University, 1-9-16, Nishihonmachi,

Nishi-ku, Osaka 550-0005, Japan

i) 英文要約：200語程度に簡潔に記述し、別紙にその和訳を添付する。段落分けをしない。

j) キーワード：他の研究者が本論文を索引する場合のことを考えて最も適当と思われるキーワードを5個以内選び記載すること。

〔例7〕Key words: Combination effect(併用効果)/Citric acid(クエン酸)/Ethyl alcohol(エチルアルコール)/Gram-positive bacteria(グラム陽性細菌)。

k) 緒言：研究の背景と目的を簡潔に明示し、総論的な記述は避ける。

l) 実験方法：簡単明瞭にまとめ、既発表の実験方法はその論文を引用して必要最小限の記述をする。

m) 実験結果：実験項目毎にその目的と得られた結果を具体的に示し、主観的な判断あるいは表現を避ける。同一実験結果は図・表のいずれか一方にまとめ、各々一連番号を付ける。なお、図・表の作成は執筆要項5,6を参照すること。

n) 考察：実験結果の意義と問題点について必要かつ十分な文献を引用して論ずる。論拠のない記述は避ける。

なお、実験結果と考察をまとめて実験結果ならびに考察として記してもよい。

o) 結論：簡潔明瞭にして具体的に示す。

p) 文献：文献は引用順に著者名または事項の右肩に^{1,2)}あるいは³⁻⁷⁾のように番号を付け、文献の項でそれらを番号順に例8を参考にして記載する。その内容は次の通りである。(1)番号、(2)著者名：和文の場合、邦人は姓名、外国人はfamily name, first, middle nameのイニシャル順に記載する。(3)年号(西暦)をカッコ内に記載する。(4)論題、(5)引用雑誌名(イタリック体表示で原則としてChemical Abstract用例の略号により記載する)、(6)巻(版)(ボールド体)、(7)最初と最後のページ。なお、要旨集やproceedingも文献として扱う。また1996年以前に「防菌防黴」に掲載された英文の

論文は、*J. Antibact. Antifung. Agents*, 1997~2012年は「*Bokin Bobai*」, 2013年以降は再び *J. Antibact. Antifung. Agents* として引用する。

- [例8] 1) 米虫節夫, 山本善一, 藤田藤樹夫 (1996) シイタケ *Lentinus edodes* の生産する抗菌性物質の単離, 同定. 防菌防黴, 24, 21-25.
- 2) Shinoda, S., Ohnogi, H., Tanaka, M., and Korenaga, T. (1996) Effect of tributyltin on environmental microorganisms. *J. Antibact. Antifung. Agents*, 24, 15-20.
- 3) Bredit, F., and Fleming, H. P. (1997) Using lactic acid bacteria to improve the safety of minimally processed fruits and vegetables. *Food Technol.*, 51, (9), 44-51. [号数の記入が必要な雑誌の例]
- 4) Scott, E. M., and Gorman, S. P. (1991) Glutaraldehyde. In *Disinfection, Sterilization, and Preservation*, 4th edn., (Block, S. S. ed.), pp.596-614, Lea and Fabiger, Philadelphia. [編書の例]
- 5) Russell, A. D. (1982) *The Destruction of Bacterial Spores*, pp.168-231, Academic Press, London. [成書の例]
- 6) 岡崎貴世, 高麗寛紀. 環境調和型抗菌剤の開発. 防菌防黴, 印刷中. [印刷中の雑誌の例]
- 7) 中川香世, 松村吉信, 土戸哲明 (1995) 日本防菌防黴学会年次大会要旨集, p.111. [要旨集の例]

q) 内容大意: 表題・著者・掲載巻号頁年・大意・キーワードの順に500字(そのうち大意は400字程度)以内に記述する。段落分けをしない。

[例9]

表題: 第四アンモニウム塩の抗菌特性
 著者: 防菌太郎 (防菌大学農学部) 防黴花子 (防菌大学家政学部)
 掲載: 日本防菌防黴学会誌, Vol. ○, No. ○, pp. ○-○ (199○)
 第四アンモニウム塩の抗真菌作用を強化するためにアンモニウムヘッドにイオウを導入した……
 ……………
 ……………
 Key words:

2.2 短報は報文に準じて記述する。英文要約は200語以内とし、段落分けをしない。緒言、実験方法、実験結果、考察、結論の項目は設けない。

2.3 総説・解説・講座・資料・トピックス・会員通信などの本文記述形式は特に定めませんが、和文表題に英文著者名、英文所属・住所を併記する。総説、解説、講座、トピックスは上記の 2. q) 「内容大意」(大意・キーワード)に従って、400字以内に記述する。用語、文献の記述、図、表の作成は論文に準ずる。図表の説明文は原則として日本語とす

る。

3. 本文中の用語、区分け、図、表および文献の記述は次の要項による。

3.1 用語は常用漢字、現代かなづかいとし、大見出し(緒言・実験方法・結果・考察・結論・文献)および文献の雑誌の巻数はボールド体表示、動物や微生物の学名および洋雑誌名はイタリック体表示をする。なお、字体の指定については執筆要項4.2を参照。

3.2 本文中の区分けは大見出し、小見出しなどを明瞭にする。見出しは原則として2段階とし中見出しはもうけない。

[例10] 実験結果

1. 合成化合物の抗微生物作用
 1) 抗真菌作用

3.3 句読点、カッコ、ハイフンなどは1コマに書き、英字は活字体で1コマに2字あてる。新しい行の始めは1コマあける。脚注の符号は、*, a)などを右肩につけ1コマに書き、その説明はそのページの最下端に赤横線で区切りその下に書く。

3.4 図・表の位置は印刷の都合で原稿中の指定位置と異なることもあるので、本文中には Fig. 1, Table 2のように具体的に記述し、『上図』や『右表』のような表現は行わない。指定位置は原稿中に明記すること。

4. 使用文字、字体、記号、略号は次の事項に従って記述する。

4.1 数字、ギリシャ文字、ローマ字は全て活字体で書き、紛らわしい場合はその読み方(ゼロ、オー、アルファ、ギリシャなど)を朱で示す。

4.2 ボールド体には_____を、イタリック体には_____のアンダーラインを朱で示す。またイタリックでボールド体は_____で示す。

4.3 subscript, superscript の字は例のようにその位置を朱で示す。

$$[例11] \frac{D}{D_{80^{\circ}\text{C}}}, \frac{N}{N_d} = Ae^{-kt} \text{ (原稿例)}$$

$$D_{80^{\circ}\text{C}}, N/N_d = Ae^{-kt} \text{ (印刷例)}$$

4.4 学術用語は文部科学省学術用語集や、防菌防黴ハンドブック、微生物制御用語事典、防菌防黴劑事典などを基準とする。

元素は原則として和名で書き、化合物名は原則としてIUPAC命名法に従って英文、カタカナあるいは化学式で書き、酵素名は英文で書く、ただし、慣用的に使用されているものについてはこの限りではない。動物、植物、微生物の学名、属名は最初に記載する場合は略することなく記述し、その

後再度記述する場合は属名のみについて略称で書く。

4.5 学術的に慣用されていない略記号を用いる場合は、最初の記述においてカッコを付けその中にその意味を明らかにする。

4.6 量単位は原則として国際単位系 (SI) を用いる。略号単位には複数でも s を付けない。

[例12] 長さ: nm, μ m, mm, cm, m, km

重さ: pg, ng, μ g, mg, g, kg

量: nmol, μ mol, mmol, mol

濃度: μ M, mM, M

面積: cm^2 , m^2

容積: μ l, ml, l, kl

時間: s, min, h

温度: $^{\circ}\text{C}$, K

4.7 数式の書き方は次の方法による。

独立した式の文字は指定のない限りイタリック体で印刷されるので、数字的記号などローマン体とすべきものは赤線で囲む。一連番号は行の右端に書く。

[例13] $\frac{dN}{dt} = -kN$ (1) (原稿例)
 $dN / dt = -kN$ (2) (印刷例)

5. 図・表の作成は次の事項に従って書く。

5.1 図・表は本文とは別紙に、各図・表を1枚の用紙 (A4版) に作成し、各葉の欄外には必ず著者名、図・表の番号を鉛筆で記入する。

5.2 図は横8cm又は17cm以内に縮小されることを念頭におき、刷り上がりの約2倍の原図を書く。特に線の太さ、字の大きさに十分注意する。

5.3 図は原図をそのまま製版するのでA4版の白地用紙などに黒で清書する。

5.4 図中の測定点は○, ●, △, ▲など、線は—,; —·—など明瞭なものを使用する。

5.5 作図を希望する場合は原図を明瞭に書く。(投稿規定8.1を参照)

5.6 写真はコントラストの明瞭なものをA4版の台紙に貼る。写真中に文字など印刷が必要な場合は該当箇所に文字など記したトレーシングペーパーを台紙に合わせて貼る。

5.7 顕微鏡写真など大きさを正確に示す場合は、写真中に尺度を示す線を入れ、説明文に単位を記入する。

5.8 図の縦、横軸には適切な題を付け単位 (4.6参照) はカッコ () 内に明示する。

5.9 表は左右開き、上下端および項目と数値などとの間に線を入れる。

5.10 図・表・写真の表題、内容および説明文は別紙 (A4版) に記述する。表の表題は表の上に記載し、説明文は表の下に記述する。ただし、原著論文、短報ではすべて英文とし、それら以外では原則として和文とする。[例14] [例15] を参照

5.11 図・表・写真の説明は本文を見なくても大要が把握できるように最小限のものを付けるのが望ましい。

[例14]

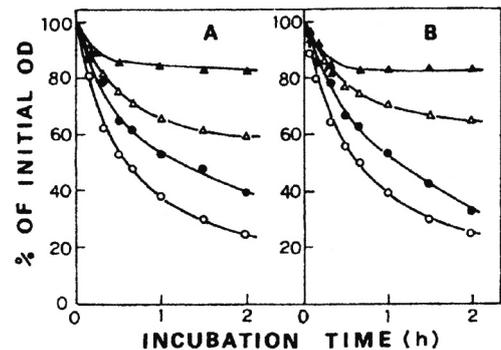


Fig.1. Inhibition of germination of *B. subtilis* var. *niger* spores by lauric acid and monolaurin. Lauric acid (A) at 0 (○), 0.1 (●), 0.2 (△), and 0.5 mM (▲) or monolaurin (B) at 0 (○), 0.01 (●), 0.02 (△), and 0.05 mM (▲) was added to a flask containing spores suspended in 50 mM phosphate buffer (pH7.0) supplemented with 1 mM L-alanine.

[例15]

Table 2. Effect of catalase in the plating medium on the enumeration of *E. coli* cells exposed to bactericidal action of peracetic acid.

Concn of peracetic acid (μ M)	CFU	
	With catalase ^a	Without catalase
0	6.3×10^8 (113) ^b	5.6×10^8 (100)
5.8	7.6×10^7 (14)	3.3×10^8 (59)
8.2	1.2×10^6 (0.02)	8.9×10^3 (0.0016)
11.3	5.4×10^3 (0.00096)	$<10^2$

^a 60units/plate.

^b Percentage.